

まいにち、できることとして、生きていく —「あたりまえの日常」を取り戻す「復興」を目指して—

福島県飯舘村は、2011年3月の福島原発事故で全村避難を強いられました。原発事故は、それまであった「あたりまえの日常」を奪い、今なお、村の人たちに仮設住宅などで暮らすことを余儀なくさせています。

そうしたなかで作成された2015年の飯舘村のカレンダーには、その表紙に次のような言葉が載っています。

「まいにち、できることとして、いきでいこう」。

頭文字をとると、「ま・で・い」となり、「丁寧に」「つつましく」「心を込めて」といった意味を表す方言になります。今、「までい」を織り込んだこの言葉は、5年目の避難生活を送る村の人たちが、元気を失ってしまわないように、お互いに呼びかけ合う言葉となっています。

「まいにち、できることとして、生きていく」

故郷を離れた避難生活のなかで、どうすれば、元気で希望を失わずに生きていけるのでしょうか。

このセミナーでは、本当に困難ななかでも、畑を耕し、までいに梅干しや漬け物をつくり、毎日自分にできることをして生きている飯舘村の人たちの、静かで穏やかな声に、耳を傾けたいと思います。

話をしてくださる方 高橋トク子さん

飯舘村生まれ。農業。震災前から農産加工品であるキムチづくりの名人として知られる。

震災後も阿武隈地域の女性農業者たちによる「食と農」の復興事業「かーちゃんのカ・プロジェクト」に加わり、自分のペースで農業を再開し、農産加工品を作り続けている。

コーディネーター 大黒太郎さん

香川県生まれ。福島大学行政政策学類准教授。専門はドイツ・オーストリアの政党政治。

震災後、飯舘中学校の生徒のドイツ研修旅行事業、「かーちゃんのカ・プロジェクト」、地域コミュニティの維持・再生を目指した学習講座「ふるさと学級いいたて」の企画・運営に関わるなどしている。

司会 奥住弘久 (熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授)

日時 2015年11月6日(金) 14:30~16:00

場所 熊本大学 黒髪北キャンパス

文・法学部棟2階 共用会議室



※ご来場の際は、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします

【お問い合わせ】

熊本大学大学院社会文化科学研究科
社会人大学院教育支援センター

Tel/Fax:096-342-2390 E-mail:full1102@kumamoto-u.ac.jp

事前申込不要・参加費無料